柳井医療センターだより

令和4年 10月
〈発　行　所〉
国立病院機構
柳井医療センター
〈発行責任者〉
住元　了

院　長　住元　了

平素より病院運営にご理解とご支援賜り、誠に有り難うございます。まず、夏の第104回全国選抜高校野球選手権では、下関国際高等学校の準優勝　誠におめでとうございました。優勝しておれば、柳井高校が全国制覇をして以来64年ぶりの快挙だっただけに、残念でなりません（ちなみに、柳井高校は公立学校なのに全国優勝するとは凄い！）。来年の捲土重来を期待しています。また、広島東洋カープがCS進出出来るかどうか、サンフレッチェ広島が優勝できるかどうか、はたまた、レノファ山口がJ2に残留できるかどうかも含め、三者三様まさに正念場を迎えています。それぞれ頑張ってほしいものです（9月14日現在）

さて、新型コロナウイルス感染症ですが、現在、第7波は明らかにピークアウトし、同時に重症患者数も減少しつつある中で、国は遅ればせながらインバウンドの数を5万人から　可及的早急に、無制限まで増やそうと考えていますし、加えて水際対策もコロナ前の水準まで緩和しようと目論んでいます。日本贔屓の多くの外国人観光客は未曾有の円安も相まって、入国を今か今かと手ぐすねを引いて待っている状況です。世界的なインフレにも係わらず賃金もほとんど上がらない日本は、この停滞した経済を立て直す一つの手段として、一刻も早く年間3000万人以上の外国人を呼び込んで、しっかりお金を落として頂ければ、インフレや円安の対策に少なからず貢献するのではないかと愚考しています。

話は変わってウクライナーロシア戦争のその後ですが、9月14日の時点では、ウクライナ軍が東部のハリキウ州と南部のヘルソン州で大々的に、反転攻勢をしかけ、大凡6000平方キロメートルの領土を奪還したと発表しました。ロシアからの反撃は無く、重火器を捨てて、遁走したと、ロシア国防省みずから認めています。ロシア軍の中で、何があったのか、推測の域を出ませんが、恐らく兵士の戦意喪失、厭戦気分、それによる兵士の逃走、兵士の数の減少、兵站不足、弾薬、ミサイルの枯渇、等々がその原因と考えます。イランからドローンを購入したとか、北朝鮮から何百万発のミサイルを購入するとか報じられていますが、世界のならず者国家2国から兵器を購入するとは国連常任理事国として如何なものか、ただただ、呆れるのみです。そうは言っても、ロシアは大国です。必ずや反転攻勢を仕掛けてくるでしょう。長期戦は避けられそうにありません。ウクライナに栄光あれと祈るのみです。

最後に当院は地域医療構想調整会議では全病棟　重度の意識障害を含む障害者、重度心身障害者、神経難病患者、脳卒中合併入院透析患者等を主として診る慢性期病院として報告し、認知されています。加えて、地域住民の急性肺炎、急性腹症、急性脳卒中、意識障害などの急性疾患も丁寧に迅速に対応して参る所存です。地域に愛され頼りにされる病院を目指して頑張りますので引き続き宜しくお願いいたします。

理　念

一　良質の医療を提供します
一　素晴らしい療養環境を提供します
一　患者満足度の向上に努めます
一　職員満足度の向上に努めます

医師コラム　三方良しの腎代替療法とは

診療部長
松本　富夫

患者さん、開業医の先生、勤務医の三方良しの腎代替療法とは！？

松陰先生のお言葉をお借りして例えるなら、患者さんは年代それぞれの春夏秋冬があるかと思います。腎臓病、腎不全と一口にいいはしますが、それぞれの患者さんたちの背景はそれぞれ違いますし、その将来もまた然り。30歳代なら腎移植をお勧めしますが、70歳代80歳代ならどんな腎代替療法が？

著しい技術の進歩に伴って、近年の腹膜透析治療には目覚ましい改善が認められます。すでに医療先進国では、どの年代でも透析導入後4年～5年間の予後は、施設血液透析より腹膜透析の方が上回っているという報告が2015年前後を境にして多くなりました。チューブ接合機や腹膜透析液の進化に伴う腹膜炎の激減、世界ではわが国だけに認められている血液透析併用腹膜透析治療も、患者さんのQOLのみならず医学的にも非常な良好な成績を出しています。

何よりも週3回すなわち年間156回血液透析に通うより、腹膜透析ならば月1回2回。生活を支えるための治療としても、腹膜透析は優れているかと思います。この治療を、地域の開業医の先生方と連携して、患者さんへの福音にしていきたいのです！開業医の先生方には、長年診療されてこられた患者さんの診療を継続していただきつつ、緊急時やトラブルの時は勤務医たる私たちが引き受ける。その体制を構築することで患者さんにも喜ばれ、三方良しの腎代替療法となる可能性を大いに秘めていると私たちは感じています。

皆さまとご一緒なら、きっと出来ます！必ずやり遂げられます！皆さまと共に、一緒に歩んでまいりたいと思っています。

新型コロナウイルス感染症における沖縄県医療支援　～看護師派遣～

看護師長　岡上　知香

私は、厚生労働省のコロナ対策における広域的看護師派遣事業の一環として、令和4年5月16日から5月31日の期間で、沖縄県の病院で勤務しました。派遣先の病院は、沖縄県立中部病院（沖縄県の中部に位置するうるま市にあり、ER型救命救急センターを設置した総合的診療ができる地域中核病院）で、入院・外来共にコロナ陽性患者の受け入れを行っていました。私が派遣された時期は、オミクロン株の流行し始めた第６波の減少時期ではありましたが、沖縄県においては約2000人/日程度のコロナ陽性の患者が発生しており、病院職員もコロナ感染で就業ができず、スタッフが減少している状況でした。そのような中でも、救急外来では、通常の救急患者を受け入れながら、コロナ陽性の患者も多数受け入れ、煩雑な業務の中で懸命に医療を提供されていました。

同時期に派遣された看護師は、私を含めて5名でした。それぞれ、スタッフの少ない部署と、救命救急センターへ配属となりました。私は、様々な理由で受診にくる患者さんの中でも、発熱やコロナ感染症状のある患者の対応を、中部病院の看護師と共に行いました。それ以外に、発熱症状のある人や、コロナ陽性者と接触歴のある人が、ドライブスルー外来に来るのですが、その患者さんの状態をトリアージ（重症度を分類する）することも行いました。少しでもコロナ陽性の疑いがある患者さんに対しては、感染対策（防護服を着たり、消毒を行ったり）を確実に実施して対応しなければならないため、人手もその分多く必要となります。初めは、どのように動けばよいか分からなかったのですが、受け入れ病院の方が優しく説明してくださり、慣れていくことができました。また、医療応援の派遣で行っていたので、自分が新型コロナウイルスに罹らないように気を付けて、休みの日もほとんど出かけていませんでした。しかし、受け入れ病院の方に「感染対策を行って適度に息抜きもしてください。」と言っていただき、車でドライブをすることもありました。観光で行く沖縄県とは違いしばらく滞在したので、現地の方に情報を貰い、美味しいものを食べることもできました。沖縄県に行かれる方に、是非勧めたいところが沢山あります。

当院は、神経難病の患者さんや人工透析治療を受けている患者さん、それに伴い長期療養をされている患者さんが多くおられるため、コロナ陽性患者さんの入院の受け入れは行っていません。だからこそ、約半月と短い期間ではありましたが、そのような医療現場でお手伝いできたのは、本当に貴重な経験だったと感じています。この経験を、今後の看護実践に活かせていけたらと思っています。

地域医療連携室コーナー

第15回訪問看護ステーション情報交換会開催報告

６月３０日に第１５回訪問看護ステーション情報交換会を開催いたしました。

今回は「重度意思伝達装置」についてリハビリテーション科毛利大作作業療法主任より講義をしていただき実際に機器を操作していただきました。

当院で使用する際の工夫及び課題として、まず評価し利用者の障害の受容に応じて利用者・介助者へ配慮した環境調整を行っているとのことでした。受容状況やパソコンへの苦手意識などから導入に至らないケースもあったり、周辺機器含めコード類が多いことなどが課題のようです。在宅での導入には、将来的な必要性の有無を検討し、利用者・介護者の理解度を評価し、行政や業者と相談していくことが必要と話されました。

実際に視線入力やスイッチ操作をしてどのようにコミュニケーションをとるのかを体験していただきました。

ご参加いただいた訪問看護ステーションの皆様ありがとうございました。

令和4年度神経難病研修会開催報告

7月3日（日）に3年ぶりとなる神経難病研修会を集合研修で行いました。テーマは「神経難病患者の医療選択における意思決定支援について」。当院の脳神経内科田妻医師による講義のあと、看護師・MSWから当院での意思決定支援の実際について事例紹介し、グループワークを行いました。グループワークでは①胃瘻を延命と捉えている家族に必要性が伝わらない②周囲に迷惑をかけたくない思いがあり決定できない③先の事は考えたくない、その時にならないと考えないと方向性が決定できない　という各グループ異なるテーマで話し合いました。「支援者としての意思統一が大事であること」や「発する言葉のその裏の心理は何なのか尋ねること」や「誰がそのリーダーシップをとっていくのか」など活発な意見交換がなされました。久しぶりの集合研修で研修内容以外の日頃の業務の悩みやジレンマを共有することができ対面研修の良さが得られたのではないかと思います。

意思決定支援の難しさを感じつつも日頃の患者・家族のちょっとしたサインを見逃さず話ができたらと思います。ご参加いただきありがとうございました。

認知症疾患医療センターコーナー

認知症医療・介護従事者研修会を開催しました

昨年はWebでの開催でしたが、今年度は当院で認知症医療・介護従事者研修会を開催いたしました。今回は「自動車運転」をテーマに、柳井警察署より土屋交通課長、あさかぜ法律事務所より丸本弁護士をお招きしました。

土屋交通課長からは免許返納に対しての事前質問を基に『返納が難しい方に対してはドライブレコーダーで本人に客観的に自分の運転状況を見てもらう』という方法や、『何度も免許証をなくしたと申請に来る方に対して家族に説明を行い家族と一緒に来て返納を行うことができた』という事例など情報提供いただきました。

丸本弁護士からは架空事例を基に認知症の方が運転をして事故を起こした場合どのような法的責任があるのか、責任能力や監督責任などについて詳しく講演をいただきました。危険運転等に対する情報提供に関しても連携・程度等の必要性と合理性を各機関において検討する必要があることをお話いただきました。

活発的な意見交換がなされ実りある研修会となりました。今後、各専門職の力をかりながら認知症の方が安心・安全に地域で過ごせるようどのような体制が必要か話しあっていきたいと思います。来年度も有意義な研修会が開催できるよう企画していきたいと思います。
ご参加いただいた皆様ありがとうございました。

参加者の声

親世代が関係していることであり大変参考になった

個人情報と多職種連携の必要性と合理性について考えさせられた

田舎は車が必須で免許返納も難しいのですが色々な方法があり参考になった

すべてにおいていい話を聞けました

認知症に関する理解を地域全体で行っていく必要があると思う

病院の統計

年　月	当院平均 患者数（人）			紹介患者数（人）
	入　院		外　来	
	一　般	療養介護		
R4.8	191	72.7	64.3	72

一般病床200床、療養介護病床80床

【紹介率】　単位：％

区　分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R３'実績	83.7	78.5	70.0	85.3	85.3	82.8	85.5	82.4	97.6	89.2	93.5	82.0
R４'実績	86.7	90.9	79.6	79.4	87.0							

【病床利用率】※一般病床のみ　単位：％

区　分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R３'実績	94.3	92.1	93.8	94.4	93.2	91.7	88.4	90.0	92.2	96.2	97.2	96.3
R４'実績	95.1	93.0	95.3	95.9	95.5							

外来診療担当表

		月	火	水	木	金	備　考
内　科		－	松本（まつもと）　信夫（のぶお）	－	松本（まつもと）　信夫（のぶお）	松本（まつもと）　信夫（のぶお）	要予約
脳神経内科	初　診	宮地（みやち）　隆史（たかふみ）	福塲（ふくば）　浩正（ひろまさ）	西川（にしかわ）　智和（ともかず）	山﨑（やまさき）　雅美（まさみ）	田妻（たづま）　卓（たく）	要予約
	再　診	西川（にしかわ）　智和（ともかず）	田妻（たづま）　卓（たく）	宮地（みやち）　隆史（たかふみ）	宮地（みやち）　隆史（たかふみ）	福塲（ふくば）　浩正（ひろまさ）	
	再　診	福塲（ふくば）　浩正（ひろまさ）	－	－	西川（にしかわ）　智和（ともかず）	山﨑（やまさき）　雅美（まさみ）	
外　科	初　診	福原宗太朗（ふくはら　そうたろう）	竹本（たけもと）　将彦（まさひこ）	住元（すみもと）　了（りょう）	松岡（まつおか）　功治（こうじ）	松本（まつもと）　富夫（とみお）	火・木曜日 午後手術日
	初　診	竹井（たけい）　大祐（だいすけ）	竹井（たけい）　大祐（だいすけ）	－	－	－	
	再　診	竹本（たけもと）　将彦（まさひこ）	松本（まつもと）　富夫（とみお）	福原宗太朗（ふくはら　そうたろう）	竹本（たけもと）　将彦（まさひこ）	松岡（まつおか）　功治（こうじ）	
	再　診	－	－	－	福原宗太朗（ふくはら　そうたろう）	－	
腎臓内科					高橋（たかはし）　輝（あきら）		
整形外科				横田（よこた）　厳（げん）	仲田（なかた）　恭平（きょうへい）		
循環器内科		小林（こばやし）　佑輔（ゆうすけ）		小栗（おぐり）　直人（なおと）			
呼吸器内科			北台英里佳（きただい　えりか）			磯山（いそやま）　正子（しょうこ）	
肝・胆・膵・消化器科		上平（じょうひら）　祐輔（ゆうすけ）					
糖尿病・内分泌内科						大野（おおの）　晴也（はるや）	
内視鏡		松本（まつもと）　信夫（のぶお）		松本（まつもと）　信夫（のぶお）		第1・3週 松岡（まつおか）　功治（こうじ）	要予約
		松岡（まつおか）　功治（こうじ）		松岡（まつおか）　功治（こうじ）		第2・4週 高砂（たかさご）　健（たけし）	
皮膚科			（隔週） 松原（まつばら）　大樹（だいき） 沼田（ぬまた）　智史（ともふみ）				
泌尿器科		広島大学病院医師					午後のみ

□は広島大学病院医師

令和４年10月1日現在

腹部救急診療

24時間365日体制で診療しています。

対象患者　激しい腹痛、心窩部痛、側腹部痛、腰痛、肛門会陰部痛、鼠径部痛、下血症例

救急担当医は次のようになります。（※時間外の体制）

	月	火	水	木	金	土	日
担当医	竹井	松岡	松本(富)	竹本	当番外科医	当番外科医	当番外科医

※消化器外科医が病院内に24時間365日常駐しています。

CT・MRＩの検査予約を受付ています

当院では、ＣＴ及びＭＲＩの検査予約を行っています。
下記の連絡先に予約を申し込んでください。放射線専門医による読影結果は FAX 及び郵送にてお届け致します。撮影画像はＣＤ－Ｒで患者様にお渡し又は郵送致します。
（至急依頼の場合の検査報告は検査後 2 時間ほどで出ますのでＦＡＸ後、郵送致します。）

CT・MRIの予約受付先

国立病院機構柳井医療センター放射線科受付
担当者　山本（やまもと）
電話:0820-27-0211　内線538 または 229
※なお、FAXでの申し込み及びその他の診療予約については地域医療連携室へ申し込んでください